

# 夢 塾 だ よ り

～ 短 歌 甲 子 園 ～ (第 25 号)

令和元年 8 月 21 日



『 東海の小島の磯の白砂に われ泣き濡れて 蟹とたわむる 』  
早世の歌人、石川啄木の歌です。

啄木の生地、岩手県盛岡市で開催された「第 14 回全国高校生短歌大会 (短歌甲子園 2019)」で県勢として初出場した昭和薬科大学附属高校が 3 人一組の団体戦で準優勝に輝きました。(八戸 (青森) が初優勝)

そして大会で最も優れた歌に贈られる「特別審査員賞」を國吉怜菜さんが受賞しました。「流」がテーマというその歌は

『 碧海 (へきかい) に コンクリートを流し込み 儒良 (ジュゴン) の墓を  
建てる辺野古に 』

1 対 1 で迎えた大将戦にその歌で会場がどよめいた。相手校の教師も「迫力が桁違いでした」と脱帽したという。

「沖縄の生活に根ざした歌をつくろう」と助言した顧問の砂川亨先生。その思いを越えた鋭い視点と豊かな感性が沖縄を照らしだす言葉を生んだ。國吉さんは、「コンクリートの無機質さを強調するために、他の単語はあえて漢字を多用した。基地問題にはずっと関心があり、本土との温度差を感じていた。短歌を通して、しっかり沖縄らしさを届けられたと思う」と話している。國吉さんは、啄木のように若き日の苦悩と期待を短い言葉で見事に投射していて私は思わず体が震えました。

昭和薬科付属中学校の生徒も夢塾には 3 名いますが、どの生徒も限らない潜在能力の塊で個性豊かです。「人がまねをしようと思ってもまねができないのが『個性』」と松井秀喜さんは言っていますが、将来ノーベル賞をもとれそうな頭脳明晰な I 君、コツコツ集中して理論を重ねる H さん、急に身長が伸び出してアインシュタインみたいな可能性を秘めた S 君。君たちの作る時代がそこまできているよ。頑張れ!